

◇日時 平成25年7月14日(日)～15日(月・祝)

◇会場 岩見沢市総合体育館美唄市総合体育館

◇使用大会 道民大会男子Bクラス・女子

◇講師 北海道バスケットボール協会審判委員会 副委員長 古畑 香子
 北海道バスケットボール協会審判委員会 指導育成グループ 山崎 真吾
 北海道バスケットボール協会審判委員会 指導育成グループ 宇都宮浩史
 北海道バスケットボール協会審判委員会 道東ブロック長 久朗津義晃
 北海道バスケットボール協会審判委員会 道央ブロック長 佐藤 智也

◇講習内容 実技・座学・ルールテスト

◇講習日程 7月15日(日)

・ 8:15～ 受付
 ・ 8:20～ 8:30 開講式
 ・ 8:30～ 9:00 ルールテスト
 ・ 10:00～16:00 実技講習①
 ・ 17:00～18:00 座学

7月16日(月)

・ 8:45～ 9:15 ルールテスト解説
 ・ 10:00～14:30 実技講習②
 ・ 14:40～15:00 閉講式



◇参加者 池田 陽彦(札幌) 武田 信明(札幌) 福田 泰子(札幌) 川島 貴裕(札幌)
 久保 和也(札幌) 北村 嘉教(札幌) 三浦 剛(北空知) 長崎 卓也(南空知)
 中村 典之(南空知) 石川 直樹(小樽) 白川 航平(苫小牧) 須藤 健吾(函館)
 横嶋 咲来(旭川) 佐藤 直也(旭川) 斎藤末世志(北見) 島倉 佳徳(帯広)
 庄司 央(北見) 牧野 一彦(釧路) 石本 潤(北見) 菊池 伸幸(北見)
 大友 喜弘(帯広)

◇受講者の感想より

・道民大会を使用している新規日本公認審判講習会、私にとっては審判として技術的なこと、心理的なことそれぞれで学ぶものがありました。

<技術的なこと>

- ・ハンドチェックング…シリンダー内で正しく使っているかの確認
- ・触れ合い…求めたのはどちらから、正しい使い方かどうか
- ・オフボールのやりとり…シール、スクリーンプレイに注視する
- ・役割分担…3・4エリアの引き継ぎ、パートナーがどこを見ているか

<心理的なこと>

- ・初めて組む審判員との綿密なカンファレンス
- ・タイムアウトを有効に使い、お互いが同じ基準で、一貫性を持てるように
 各日、1試合ずつ審判を務めさせていただけたのが、とても勉強になったと共に、最終日に当たったのは大きな自信となりました。今回学んだことを今後の審判活動に活かしていきます。
 講師のみなさま、南空知地区のみなさま、ありがとうございました。

・岩見沢市及び美唄市の総合体育館を会場に、道民大会男子Bクラスと女子の大会を使用し行われました。

これまでの地区での取り組みを全て出せるよう普段通り頑張ろうと考え、講習会に臨みました。

ルールテストでは記述式の問題がありました。頭では理解していると考えていますが、言葉で表現するとなると正確な解答ができないものがありました。

競技規則やマニュアルの一言一句を大切にし、どのような場面でも、どんな人にも適切に説明できるような準備をもっとやっておかないといけないです。

実技では、これまで積み上げてきたものを出しましたが、ファウルやヴァイオレーションの吹きこぼしが出てしまいました。しかし、走り込むことに関しては、試合を通じてやり通せたと感じています。

座学では「審判を始めたきっかけ」及び「なぜ公認審判になりたかったか」等を考え、発表しました。講師の山崎さんからは「4月に公認審判のワッペンを受け取ったときの気持ちを忘れたい欲しい。公認審判になったからといって決して偉くなった訳ではありません。」とお話いただきました。

今回の講習を通じ、「全道のそれぞれの地区で皆頑張っていること」「地区での普段の活動の大切さ」を再認識できました。今後、このような同期の者で集まる講習会はありませんが、他の同期に負けられないよう地区で取り組んでいきたいです。



・新規日本公認審判講習会に参加させて頂いて、ルールテスト・座学では、今一度ルールブックに基づいた理解が必要だと痛感しました。頭では解っていると思っていたことが、言葉として文字として出てこないということは理解が出来ていないと同じことになるので、もう一度熟読しなければならないです。実技では今まで自分が行ってきたことを少しでも出せていけたらと思い臨みましたが、足を運んでいても何のために動いているのか、どこを見なければならぬのかなど、今までの反省点がまた課題として出てしまったり、新たな課題として、審判が行わなくても良い行動(ボールを拾いに行ったり、残り秒数を声に出したり)が気をつけていかなければならぬ事でした。そして、同じく新規の方達と顔を合わせ、それぞれが日々研鑽している事を思うと、私自身もまた更に頑張っていかなければと思います。このような機会を頂き有難うございました。この経験を活かしてこれからの審判に役立てていきたいです。北海道バスケットボール協会の皆様、南空知地区の皆様、色々ご配慮頂き本当に有難うございました。この経験をコート上で表現していけたらと思います。

・「日本公認審判員」として活動し始めて3ヶ月。ワッペンが変わっただけでジャッジがうまくなったわけでもなく、課題は新しいものがどんどん見つかっていきました。それに加え、責任の重みを強く感じるようになっていきました。

そんな時にこの審判講習会に参加させていただきました。審判の技能についてはもちろんですが、同じ課題や悩みを抱えた同期の審判員の方々との交流で少しずつ胸のつかえがとれていったように思います。

一方、ルールテストでは思いのほか得点が伸びず、まだまだ人に説明できるほど正しく理解できていないことを痛感しました。ひとつひとつの言葉を丁寧に、ルールブックを読みこんでいきます。これからはまた地区での研鑽となります。いろいろな審判員との交流を楽しみに、今後も様々な大会に稼働させていただきたいと思っています。



・このような講習会を開いて頂きましてありがとうございます。スペースの捉え方や、それに伴う動き方等、大変勉強になりました。今回の講習会で、わかったこと、確認できたことを、今後の審判活動に生かしていきたいと思えます。講師の皆様、大会運営に携わって頂いた役員の皆様、本当にありがとうございました。

・新規日本公認審判講習会に参加させていただきました。印象に残ったことは、まずたくさん同期審判員がいて、この仲間たちと切磋琢磨していけるんだなと確認できることができました。また、座学では、山崎講師の方から、「日本公認に合格した時の気持ちやワッペンが届いた時の気持ちを忘れてはいけない」と教えていただき身がひきしまりました。また、こういった全道での経験を地区に持ち帰り、伝えていく役割もあることがわかりました。自分もそうやって努力した先輩たちがいたからこそここまで来られたのを再確認できました。実技では、いい意味でも悪い意味でも自分の実力を出せたのかなと思います。地区に持ち帰り、伝えなくてはならないアドバイスもいただき、とても良い経験ができました。こういった機会を与えてくださった道協会、審判委員会のみなさまに感謝いたします。地区に持ち帰り、伝え、地区での活動を頑張ることが恩返しかと考えています。ありがとうございました。

・感想としては、新しいものが身についたら、古い物が忘れていっている、当り前の事が当り前に行えなくなっている。そんな事を気づかされた審判でした。自分としては、おろそかにしているつもりはなくても、大事な所での確認のなさ、自分からのコミュニケーション不足で、久朗津さんに大変ご迷惑をかけてしまいました。もっと積極的にやらなければと反省だけが残りました。公認としての責任の重さを改めて感じました。まだまだはじまったばかりですが、日々成長出来る様、努力していきたいと思っています。



・今回、この講習会に参加して、多くのことを学ぶことができた。特に、講師の方々からの貴重なアドバイス、公認同期の仲間からのアドバイスをいただいたことは、地区に戻ってからも忘れることなく取り組んでいきたいと思っている。

実技を通しては、現段階での自分の課題がより明確になった。日頃、地区で言われていることも多く、課題解決に向けた具体的な事柄（動き、意識、視野など）についてアドバイスされたことを大切にしたい。

座学を通しては「公認審査合格時の気持ち」「審判を始めたきっかけ」を忘れずにいることが大切であると再認識することができた。そして何より、地区での積み重ねが審判力の向上につながると思いらされた。どのレベル、どのカテゴリーにおいても、同じモチベーションをもち続けて取り組んでいくと強く思った。

この2日間を通して、「公認になった」と改めて感じる事ができた。やらなくてはいけないこと、意識し続けることを忘れずに、「公認としての自覚と誇り」をもって、日々、向上心をもって取り組んでいくと思う。

講師の方々、公認同期の仲間感謝しています。ありがとうございました。

・レフリー人生で1度しかない「新規」日本公認審判講習会。有意義なものにしようと意気込んで参加した。全日程を終えた今、総括すると、「どのような審判が周囲に信頼されるのか」「自分はどういう日本公認審判になりたいのか」この2点が自分の中に残っている。この2点を考え、実践してこそ「判定」であり、「振る舞い」であると認識することができた。公認のワッペンはゴールではなく、本当の意

味でのスタートであるのだから、この2点を常に自身へ問いかけ、向上していきたいと思う。実技を終えての感想は、自分の持ち味である「オールウェイズムービング」「ベネトレイト」の面を講評で挙げて頂き、大変自信になった。また、その足を生かして、「本当に必要なスペースウォッチングを見つづけること」を今後の課題として示して頂き、地区に戻ってからの取り組みで考え、向上していきたい。最後になったが、今回の講習会に際し、本部の方々をはじめ、開催地区である南空知地区の皆様、大会出場チームの皆様、その他沢山の方々に、この場をお借りして御礼申し上げたい。多くの方々のご協力があって、この機会に恵まれたことをこれからも忘れずに今後のレフリー活動に取り組んでいきたい。

・自分が審判をしたゲームでは、リードで右に行くことが少ないこと、もっと動きを工夫して、見えていない部分を減らすことが課題だと教えていただきました。他のゲームを見ていると、最初の悪い手の使い方が外から見るとよくわかるので、それをコートの中でもとらえられるように、次のプレーを予測して動きたいと思いました。判定していないプレーが少なくなるようにしていきたいと思っています。ルールテストの解説がとても勉強になりました。自分の中であいまいになっていることで、判定をまよわせたり、むすかしくさせたりしているのだとわかりました。やはり、ルールが基本、それ以外はないのだと思いました。



・25年度より日本公認審判として各大会等へ参加させていただきましたが、日本公認審判としてどのようにゲームをまとめていけば良いのか？判定は？など、いろいろな面で悩んで、この講習会に参加しました。

座学、ルールテスト等では、ヴァイオレイションの判定、イリーガル・ユース・オブ・ハンズの判定、ルールの理解と言った当然できるだろうと思われ、見落としがちな事の再確認を行いました。それによって私は、もう一度初心にかえって判定の基準を見直せることが出来たと思います。

実技では、スペーシング、フィットネス、ポジション等自分の中で出来ていない事についてのアドバイスをもらい、今後の課題が見えてきました。

その中でもやはり講師の方々との会話でいろいろな事を相談できたのが一番良かったと思います。

今後も日本公認審判としてやっていきますが、本講習会で学んだ事や講師の方々のお話、新規日本公認の方々との会話等で得たものを自分のものとして少しでも自己のレベルを上げられるようにがんばっていかうと思う事ができました。

講習会に参加して本当に良かったと思います。

・北海道の各地区で、自分と同じような立場で活動している新規公認審判員の方々のゲームを数多く見て、同様のミスをしてしまうケースや、自分にはできないような良い判定などがあり、多くの刺激を受けました。

プレイヤーに合わせて動き、目の前のプレーを判定する、ことについては当然みなさんできていましたが、プレイヤーに先行して動き、より広い視野で多くの情報を集めて、スムーズにゲームを進行させる判定をする、というレベルにはまだまだ遠いと感じました。予測、スペースウォッチングにこだわって小刻みに動き続ける習慣を今のうちに体にたたきこみたいと考えています。中、高生の地区1回戦のゲームでも、全道大会のゲームでも同じ意識をもって、スペースをとらえることにこだわり、経験を積むしかないと思うので、絶対に目の前のゲームのレベルに合わせてダラけることなく、今回吹かせていただいたゲームの感覚を忘れず、どのゲームでも通用する動き方をできるだけ早く身に付けたいと思います。

レベルが高いゲームになればなるほど1人では絶対にゲームを収めることができないので、相手審判との協力、分担も今後の大きな課題となります。相手の立場になって、こまっていることは何か？ どう

助けてあげるべきか？ ということを常に考えて、2人の力でゲームを運営していく力を伸ばしていきたいです。そのために、相手の位置を常に把握したり、相手が見やすい位置に動くようにするなど必ず2人がお互いを確認し合うようにすること、基本的なマニュアルの動きを完璧に理解することが必要なので、この辺も地区の大会で強く意識してきたていきたいと思います。

- ・今回の講習会に参加させてもらい、一番最初に思ったのが、審判に対する意識の違い。自分は今まで、なんとなく審判を始め、なんとなく日本公認の審査を受け、稼働依頼があってもなんとなく参加したりしていた。周りの方は、自分から積極的に笛を吹きに行ったり、他の人がアドバイスをもらっている所において、メモをとっている姿が目についたりした。みんながそんな向上心をもって臨んでいるのに、なんとなく参加している自分なんかが良い笛が吹けるわけがないと思った。これから地区に帰り、また稼働するとは思いますが、これから先は、コートに入る前、試合が終わった後にも気を使って、参加していきたいと思う。



- ・新規公認審判講習会に参加して感じたこと

1、フィットネスが不足している

良い判定をするには、良い位置へ移動し、良い視野を早くとることが大事であることが、改めて感じた。公認を目指していたときからの自分の課題であったにもかかわらず、疎かになっていた。リードに入るときスピード、トレイルの追従、いずれも初心にかえって見直さなければならぬと感じました。

2、判定の一貫性の徹底

道央ブロックの講習会でも指導のあったことであるが、自分は1Pの基準づくりがあいまいであり、ベンチにきちんと示すように努めることが必要である。また作った基準を4Pまで吹き通すこともできていない。特にタイムアウト、交代のあとのゲームの流れがかわったときに対応できていないので、これも今後の課題として取り組んでいきたいと思います。

全体を通して、公認を目指していたころに課題とされていたことが、疎かになっていて、今回の講習会で改めて指導されたことは、反省しなければならないと強く感じております。

今後は、審判としてのスキルを高めるため、様々なゲームへのチャレンジと自己研鑽に努めていきたいと思ふ。

- ・審判の割当は実力主義であると地区でよく聞かされてきた。講習会、全道大会は自身がどれだけ積み重ねてきたかの発表会でもあると思った。今回、最終日の割当を頂くことができたのはとても嬉しいが、周りの期待と責任というものもとても感じている。しかし、自分がこれから目指していくところには、より多くのことが求められるので、このような舞台をたくさん経験し、結果を出していかなければならない。本講習会では同期の方々との交流を通して、改めて自分自身の審判活動への思いを強く意識でき、大変有意義なものであった。初心を忘れず、いつまでも謙虚な気持ちを持ち続けたい。コーチ、観衆、何より練習を重ねてきたプレイヤーの為に、地区に戻ってから、今まで以上に努力をしなければならぬ。これは日本公認審判という資格を取得した以上、求められるべき姿勢のひとつであると思う。

- ・背伸びをしても実力以上のものは出せないということで、今まで自分が地区で取り組んできたことをオンザコートで表現するようゲームに臨みました。講評では特に2人の審判員の協力についてアドバイス頂きました。相手審判の位置を見て自分の位置取りをすること、コート上でもっとコミュニケーション

ンをとることなど、改めて2人で協力することの重要性を認識しました。

同じ志をもった同期の仲間たちと、審判を始めたきっかけや日本公認審判を目指した経緯などについて交流しました。また講師の方々の「初心を忘れないで今後の審判活動に取り組んで欲しい。」という言葉が、やはり審判の原点であると感じました。

審査結果が出てから今日まで、「今大会の最終日の割り当てを勝ち取る」ことを目標に取り組んできたが、その目標を達成することができなかったことに、自分の力不足を感じました。今後地区に戻って、この悔しい気持ちを晴らすことができるよう研鑽を積みまます。



- ・実技講習については自分の講習会に向けての取り組みの甘さが浮きぼりになった。また、自分のカテゴリー外の経験の少なさから、確認がしっかりとされず、選手に不満を持たせる原因となっていた。座学、ルールテスト、解説では、ルールブックの大切さを改めて感じた。思い込み、感覚でやっていたのではないかと、笛を鳴らしたときに、ルールブックに照らし合わせて、しっかりと説明できるか、あいまいな部分はないか、今一度きちんとやっていけるようにしたいと思った。また、座学での審判を始めたきっかけ、やっていた良かったことなど人それぞれ

違うが、迷ったとき、悩んだとき、くじけそうになった

ときに思い出して欲しいという話はとても印象深く、実行していきたい。

- ・日本公認を取得して初めての全道大会であった。心地よい緊張感と主審という大役の中での審判だったが観客の皆さんには私の姿がどう映ったでしょう。今後も更に信頼される審判員を目指して頑張ります。

- ・今回、新規日本公認の同期が集まり、指導育成部の方やブロック長、地区審判長の指導の下、緊張感と久しぶりに仲間たちと会った懐かしみを感じながら、私たちが経験する最初で最後の講習会が始まった。我々審判員は、様々な状況にも適応させつつ、1試合通じて一貫した判定基準を持たなければならないと改めて考えさせられた。

実技での反省は、普段地区でも言われている「冷静すぎる」こと。おそらくこれは、通常であれば「強み」なのだろうが、私にとっては「弱み」なのである。他の方より年齢が若い分、細かい部分も含めて走らなければならないという意識は持っているが、試合展開次第で自分自身にブレーキをかけてしまう

ことが多々あり、精神的に未熟な部分があるので、この点については今回の講習会を終えて絶対に改善しようと思えた点だった。

最後に、講師の方々の指導やともに切磋琢磨しようとする仲間たちの影響により、通学している大学の都合上、初日のみの稼働でしたが、引き締まる思いで講習会を過ごすことができたと感じる。座学でもありましたが、実力を備えていくために何よりも大切なのは、日頃の実践であると思うので、地区に戻り、より研鑽を積んでいきたいと思う。

